

## 令和3年度 第6回加古川市石綿関連疾患リスク推定部会 次第

日時：令和3年9月29日（水）14:00～

場所：国際交流センター 201号室

### 1. 開 会

### 2. 部会員出席状況報告

### 3. 配布資料確認

資料1 下地調整材の章の追加

資料2 章立て、大筋の項目案について

資料3 加古川市中間報告書作成手順

### 4. 『大気汚染防止法に関する追加説明資料』の校正について

### 5. 議 題

議題1 中間報告目次案（第2版）（第5回部会資料）への追加提案【資料1】

- ・ 建築用下地調整材とは
- ・ 別府中学校で使用された下地調整材の成分について

議題2 中間報告書作成の編集方針案について

【資料2、3】

- ・ 章立て、大筋の項目案について
- ・ 各章の担当者割当てについて
- ・ 編集と校正の方針について

### 6. その他

### 7. 閉 会

## 下地調整材の章の追加 2021年9月21日案

以下は、亀元委員と名取で総論は話し、9月13日口頭では担当は合意しています。

**1. 章の追加と担当** リスク推定部会 中間報告目次案（第2版）の「2 リスク推定を進めるためのフローの検討」と「関係者ヒアリングおよび現場調査の実施」間に、「下地調整材とは何か？ 別府中の場合の成分とは」を追加する。

**2. 「下地調整材とは何か？ 別府中の成分は」章と項目案** 担当名取・村山・亀元+委員

### (1) 下地調整材とは

名取・村山

・建築用下地調整材は「3.1 主材 セメント、骨材、無機質粉体、混和剤などを原料として調整・調合した粉状のもの」（JIS A6916）

・建築用下地調整材は、セメント系下地調整材、合成樹脂エマルジョン系下地調整材（結合材として、セメント、セメント混和用ポリマーデイスバージョン、再乳化形粉末樹脂の混合）セメント系下地調整厚塗り材の3種類（JASS23、p4、2006年）

・下地調整材 E は、アクリルや EVA などの合成樹脂エマルジョン、顔料（二酸化チタン、炭酸カルシウムなど）、細骨材（けい石粉など）、添加物（分散剤、増粘剤、防腐剤など）などを原料とし、樹脂固形物が 10~20%程度、顔料や細骨材が 40~60%程度で構成されているのが一般的である（（JASS23、p90、2006年）

### (2) 下地調整材の材料

建築用仕上塗材ハンドブック 2007

名取・村山

表 2-7 下地・仕上塗材の種類と下地調整材との適合表（JASS23 吹付け工事より）

建築用仕上塗材ハンドブック 2007 P22 の表は引用

- ・**建築用下地調整塗材 JIS A6916、C-1、C-2、E、CM-1、CM-2、**  
（詳しくは JASS15 左官工事、日本建築学会、1957 版~2019 第 6 版、2019 年版あり。アスベスト含有時の 1980 年代の版をみて記載することが必要）
- ・JASS 23 吹付工事 日本建築学会、**1977 版~2006 第 4 版、2006 年版あり。**  
アスベスト含有時の 1980 年代の版をみて記載することが必要）

**(3) 日本建築仕上げ材工業会の現会員が過去に製造したアスベスト含有塗材** 名取資料有

**(4) セメント系フィーラーと樹脂系フィーラーの相違** 製造方法と成分

部会ヒアリング 日本建築仕上げ材工業会・製造会社必要 文献調査等進捗で部会判断

**(5) 別府中で使用されていた下地調整材の電子顕微鏡による成分分析**

亀元 他

- ・ 亀元委員 + 小澤氏（亀元氏 承諾済み）
- ・ 富田委員（？） 可能な部分を検討

**(6) 建築現場における下地調整材の使用法**

ヒアリング 名取担当 A 社 B 氏

**(7) 文献調査**

村山先生 + 名取補佐

- ・ JIS A6916 最初の制定 1983 年 11 月 1 日か？ と後の変遷
- ・ JASS23 吹付工事 1980 年代版 ・ JASS15 左官工事 1980 年代版

2021.9.29

リスク推定部会  
中間報告の目次案（第3版）

1. 部会の開催状況と議題内容
2. リスク推定を進めるためのフローの検討
3. アスベストを含む下地調整材の概要（仮題）
4. 関係者ヒアリングおよび現場調査の実施
  - ・ヒアリングの実施
  - ・現場調査の実施
  - ・アスベスト含有量の推定
  - ・工事現場における作業の特定  
(追加ヒアリングの扱い)
5. 擬似漏洩実験による屋内漏洩状況の推定
  - ・実験における諸条件の設定
  - ・実験の実施概要
  - ・結果の概要
6. 周辺地域の濃度推定に向けた作業経過
  - ・対象とする区域の区分
  - ・大気拡散モデルを用いた推定
    - ・用いるシミュレーションソフトの概要
    - ・濃度推定のフロー
    - ・気象データの特定
    - ・仮条件を設定した場合の拡散状況の例示
7. 今後の予定（今後記載予定で検討中の内容とその課題）
  - ・数値シミュレーションを用いた推定
    - ・用いるプログラムの概要
    - ・濃度推定のフロー
    - ・気象データの特定
    - ・仮条件を設定した場合の拡散状況の例示
  - ・屋内／屋外における濃度の推定
  - ・ばく露対象の属性別リスクの推定

## 加古川市中間報告 作成手順について 第6回リスク推定部会 名取・村山

### 1. 目的

中間報告および最終報告書は、生徒・保護者および町内会委員ほか関係者が参加される公開の加古川市委員会、求めがある場合には説明会等で説明する文章となります。報告は、今後、それぞれの分野のアスベストの専門家が参考に読む場合もあります。企業の報告書・個人の研究発表とは異なり、複数分野の複数委員が合意した委員会のまとめの文章となります。

他の委員、リスク推定部会長、委員長等から数回の校正があることはご理解ください。

### 2. 方法の記載

各章や各項目の担当者は、それぞれの章で、目的、方法、結果、考察の項目を立てることを意識して記載をお願いいたします。特に用いた方法については、アスベストに関する、測定等の参考文献を複数添付するようにしてください。アスベストについて過去の文献がない場合は、その旨を正確にご記載ください。

考察では、方法自体の妥当な範囲を必ず検討し、時間や空間等での課題、どの点で過小評価しどの点が過大評価の可能性があるか意識的に明記するようにお願いします。

以上の整理が十分でない章や項目があったり、ヒアリングが不十分で再度やり直す場合、委員全体の意見の一致がなかなかできない場合が他の自治体の委員会で複数経験されています。場合によっては、中間報告の延期、最終報告書作成に3年ということもありえます。

### 3. 委員間の打ち合わせ

加古川市の場合、原則公開となっているリスク推定部会に加えて、委員の間の打ち合わせの機会を通じて、中間報告作成作業を進めてまいります。

締め切りを設け、章の項目建て、方法、結果を記載した A4 1～2枚の各章概要を、打ち合わせの場にご提出ください。担当委員、加古川市事務局、部会長、委員長等で検討し、内容について特に大きな問題がないことが確認できた章を部会資料としてリスク推定部会で協議させていただきます。

リスク推定部会で概要が了承された章は、翌月か翌々月のリスク推定部会をめぐって完成文章として提出とさせていただきます。

### 4. 中間報告には記載しない内容の扱い

ヒアリングの不十分、再現実験の不十分、委員間の意見調整に時間が必要などで、十分な準備ができない内容は、2021年度末までに予定している中間報告には記載しない予定です。

中間報告書には、「今後記載予定で検討中の内容とその課題」といった文章を、リスク推

定部会長と委員長で記載させていただきます。

準備が遅れる内容も、中間報告書には記載しない予定です。

## 5. 今後の日程（案）

2021年

9月29日 第6回部会 中間報告作成手順承認、第7回部会に要約提出可能章の決定

10月〇日 部会打ち合わせ 要約提出可能な章（ ）

11月2日 第7回部会協議事項 要約提出章検討、中間報告提出見送る章の検討決定  
業者ヒアリングの検討

11月〇日 部会打ち合わせ 要約提出可能な章（ ）、中間報告最終案完成の章

12月〇日 第8回部会 協議 要約提出可能な章（ ）、中間報告最終案完成の章  
業者ヒアリング 中間報告の進捗状況で 掲載可能性協議

12月〇日 部会打ち合わせ 第9回部会準備

2022年

1月〇日 部会打ち合わせ2回目 第9回部会準備

1月〇日 第9回部会 中間報告の進捗状況 中間報告案 第1回検討

1月〇日 部会打ち合わせ 中間報告の報告案 検討

2月〇日 第10回部会 「中間報告の報告案」承認

2月下旬 第2回 委員会 中間報告の報告

春以降～8月 残った課題 数点を 順次報告 協議 検討

秋から12月 最終報告書 検討 協議 作成